

# 別紙

## 名古屋工業大学教員による研究活動上の不正行為の認定について

### 1. 発覚の時期・及び経緯

2024年6月14日に不正告発窓口である監査室に研究不正行為の告発があり、予備調査チームによる報告を受けて不正行為調査委員会を設置し本調査を行うことを決定した。本調査の結果、研究活動上の不正行為が行われたと認定した。

### 2. 調査体制

#### (1) 不正行為調査委員会

委員長 永田 謙二 副学長(研究推進、安全管理、リスクマネジメント担当)、研究不正防止  
委員会委員

委員 増田 理子 社会工学類長、研究不正防止委員会委員

委員 館石 和雄 名古屋大学大学院工学研究科教授(外部委員)

委員 八嶋 厚 岐阜大学工学部特任教授(外部委員)

委員 早瀬 久雄 あいぎ法律事務所 弁護士、あいぎ特許事務所 弁理士(外部委員)

#### (2) 調査対象者

社会工学類・大学院工学研究科 野中 哲也 教授ほか1名

#### (3) 調査対象文献

3編(調査対象文献(a):国内の学会シンポジウム講演論文集、調査対象文献(b):調査対象文献(a)の後半部分に記述の再現解析箇所を報告書形式に合わせレイアウトを変更したものの、調査対象文献(c):調査対象文献(b)の報告発表)

#### (4) 調査の方法

- ・告発内容の確認、予備調査結果の確認
- ・調査対象者及び関係者からの聞き取り(ヒアリング)調査等
- ・先行文献等と調査対象文献等との比較分析

### 3. 本事案に対する調査委員会の調査結果を踏まえた結論

#### (1) 認定した不正行為の内容

##### ○特定不正行為

- ・盗用

##### ○特定不正行為以外の不正行為(研究活動上の不適切な行為であって、科学者の行動規範及び社会通念に照らして研究者倫理からの逸脱の程度が甚だしいもの)

- ・不適切なオーサーシップ

(2) 不正行為に関与したと認定した研究者

社会工学類・大学院工学研究科 野中 哲也教授：盗用、不適切なオーサーシップ  
同上 A助教：不適切なオーサーシップ

(3) 認定理由

①盗用（適切な表示がない先行文献の流用）

調査対象文献(a)は前半の実験と後半の再現解析から成り立っており、前半の実験部分は先行文献と同一である。調査対象文献(a)の作成に関わった野中教授は先行文献について既知であったにも関わらず、調査対象文献(a)の前半部分について当然認識している先行研究の存在を無視し、その研究成果に言及せず、過去の関連論文の出典を意図的に明示していなかった。

②盗用（研究データの流用）

調査対象文献(a)の後半の再現解析は先行文献と同一の実験データを用いており、この実験データがないと調査対象文献(a)の執筆はできないが、野中教授は実験データについて管理権限を有する研究者の承諾を得ていないにも関わらず、執筆者の一人に再現解析及び結果の執筆を行うよう働きかけた。

③不適切なオーサーシップ

調査対象文献(a)の著者らは、誰も前半の執筆者を把握していなかった。これは、共著者間で協議、校閲し執筆を進めたのではなく、野中教授が個別に各著者と連絡をとっていたことによる。また、研究の構想・デザインや、データの取得・分析・解釈に実質的に寄与した先行文献の著者は誰も入っていなかった。野中教授は上述の内容を主導した。

A助教は、論文の完成に有意な貢献をした者とはいえないのに、調査対象文献(a)の共著者として自らを列挙した。

(4) 認定した不正行為に直接関連する経費の支出について

不正行為を認定した文献の作成過程において、直接関係する経費の支出は認められなかった。

4. 本学が行った措置

調査対象文献の取り下げ勧告。

就業規則等に基づく処分。

教授：懲戒処分（資料「懲戒処分の公表について」のとおり）

助教：懲戒処分に到らない措置

5. 発生要因

(1) 研究倫理に対する理解の欠如

野中教授及びA助教は、査読論文でなければ、オーサーシップ等が問題になることはないと思込んでおり、研究倫理教育は受講していたものの都合の良い解釈をしていた。また、両者は、先行文献を表示することなく研究成果を流用することや、研究データの管理権限を有している者の了承なくデータを流用することが、研究活動とその成果発表の本質に反するものであ

るという認識が乏しかった。

## (2) 背景

野中教授は著者選定を主導できる立場にあり、どの著者も野中教授に対し意見や疑問を投げかけることが難しかったことも発生要因の一つになっているものと思われる。

## 6. 再発防止策

当該教員に対し、研究倫理教育の再受講及び研究データの取り扱いについて研修を受講させる。  
名古屋工業大学研究室運営心得及び学術データポリシーを学内構成員に周知徹底する。